

2025 年 11 月吉日

会員各位

第 76 回全国学術大会 自由論題・テーマ分科会募集のお知らせ

2026 年日本現代中国学会全国学術大会は、5 月 30 日（土）・5 月 31 日（日）の両日に東京女子大学（東京都杉並区）にて開催することとなりました。以下の応募要項の通り、会員の皆様から自由論題の報告希望者およびテーマ分科会の開催希望者を募集いたします。奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。託児補助については第 3 頁にご案内がございます。

なお、今大会の共通論題は、「毛沢東没後 50 周年、毛沢東時代を改めて考える」です。企画趣旨については第 4 頁をご覧ください。

応募要項

自由論題の報告希望者およびテーマ分科会の開催希望者を以下のように募集します。事務的混乱を避けるために、やや煩瑣なご依頼事項を列挙しておりますが、ご協力お願いいたします。

①自由論題

自由論題の一人の報告時間は 25 分程度です。報告者は会員でなければなりません（非会員の場合は下記⑤を参照してください）。

報告を希望する会員は、指定のグーグルフォーム (<https://tinyurl.com/genchu2026>) を通じて申し込んでください。具体的手順は以下(i)～(v)の通りです。

- (i)「自由論題の報告申し込み」を選び、「次へ」をクリックしてください。
 - (ii)日本現代中国学会の会員であるか否かを選択してください(非会員は申し込めません。ただし入会申請済みであれば申し込み可能です)。
 - (iii)一般会員であるか大学院生であるかを選択してください。
大学院生の場合は、指導教員またはそれに相当する会員の推薦状をあらかじめ実行委員会のメールアドレス (genchu.kanto@gmail.com) に送る必要があります。推薦状の書式は自由ですが、推薦者の氏名、所属、連絡先、推薦理由を記載してください。また PDF ファイルでの送付をお願いします。推薦状が未送付の場合は申し込めません。
 - (iv)一般会員あるいは大学院生で推薦状を送付済みの会員は、次のセクションで氏名（漢字およびカタカナ）・所属・メールアドレス・報告テーマおよび要旨（800 字程度）を記入してください。必要事項をすべて記入できたら「次へ」をクリックしてください。
 - (v)最後に「送信」を選択することで申し込み完了となります。

②テーマ分科会

テーマ分科会は、報告者2～3名と討論者、司会者によって構成され、持ち時間は約2時間です。会員を中心に構成するものとし、エントリー後のメンバーの変更はできません。企画責任者（代表者）は会員であることが必要です。

開催を希望する場合は報告者・討論者・司会者を確定した上で、企画責任者（代表者）1名が、指定のグーグルフォーム（<https://tinyurl.com/genchu2026>）を通じて申し込んでください。具体的な手順は以下(i)～(vii)の通りです。

- (i)「テーマ分科会の企画申し込み」を選び、「次へ」をクリックしてください。
- (ii) 企画責任者（代表者）について氏名（漢字とカタカナ）と所属、企画テーマを入力してください。必要事項がすべて記入できたら「次へ」をクリックしてください。
- (iii) 報告者（2～3名分）についてそれぞれ氏名と所属を記入し、日本現代中国学会の会員であるかどうかを選択してください。
- (iv) 討論者について、氏名と所属を記入し、日本現代中国学会の会員であるかどうかを選択してください。
- (v) 司会について、氏名と所属を記入し、日本現代中国学会の会員であるかどうかを選択してください。
- (vi) 必要事項をすべて記入できたら「次へ」をクリックしてください。
- (vii) 最後に「送信」を選択することで申し込み完了となります。

③2026 年度全国学術大会における自由論題およびテーマ分科会の応募は、グーグルフォームでのみ受け付けます。どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

④締め切りは2026年1月31日（土）とします。

⑤自由論題報告を希望される学会非会員の方は、入会申請をしたうえでご応募ください（日本現代中国学会のウェブサイト <https://genchugakkai.com/nyukai/> を参照）。入会手続きが報告発表までに完了しない場合でも、入会申請済みであれば発表は可能です。

⑥大会参加の旅費および宿泊費等は自己負担となります。

⑦応募をされた方には、実行委員会のメールアドレス（genchu.kanto@gmail.com）より応募受理の連絡をいたします。グーグルフォームでの申し込み完了後、1週間以内に連絡がないときは、メールにてお問い合わせください。

⑧採否については、企画委員会・実行委員会が決定し、応募締切後、1カ月以内に連絡しま

す。

⑨採択された方は、大会 10 日前の 2026 年 5 月 20 日（水）までに報告原稿またはレジュメを実行委員会のメールアドレス（genchu.kanto@gmail.com）に提出してください。

⑩会場の教室にはプロジェクターとスクリーン、スピーカーが設置されていますが、PC のご用意はありません。パワーポイント等を使用される場合は原則として HDMI で接続可能なノート PC 等をご持参ください（HDMI ケーブルは教室にございます）。また、特殊な機材を持ち込まれる場合、ご使用いただけない可能性があります。機材に関するご相談は、プログラム確定後に実行委員会の会場校担当者がお受けいたします。

この機会に当学会未加入の優秀な大学院生の皆様にも、ぜひ入会と報告発表をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

日本現代中国学会第 76 回全国学術大会
企画委員長（関東部会代表） 石塚 迅
実行委員長 家永真幸

託児施設ご利用時の補助について

大会実施に際し、学会から託児補助をおこないます。自由論題、テーマ分科会の応募を検討される際に、以下をご参考になさってください。

会場校に託児施設はございません。会員ご自身で手配された有料託児施設をご利用される場合で、事前にお申し込みをいただいた方に限り補助を支給いたします。

補助金額はお子様お一人一日あたり 5000 円を上限とした実費払いとなります。補助金には限りがあるため、登壇者かつ非有職者の方を優先、先着順を原則として支給します。期限内にお申し込みいただいても、支給できない可能性がありますので予めご了承ください。

補助をご希望の方は 2026 年 5 月 20 日（水）までに、以下宛にメールにてお申し込みください。その際に、件名は「託児施設利用に伴う補助申請」とし、本文内に利用施設名と所在地、利用日、利用時間を必ず明記ください。なお期限を過ぎた場合は、対応いたしかねます。

申込先：熊倉 潤（大会実行委員） kumakura@hosei.ac.jp

共通論題のご案内

今大会の共通論題は、「毛沢東没後 50 周年、毛沢東時代を改めて考える」です。2026 年は、毛沢東死去からちょうど 50 年の節目の年にあたります。過去半世紀の間、とくに 1980 年代に中華人民共和国で改革開放政策が本格化して以降、本学会の研究活動にかかわる資料の公開や学術交流は大いに発展しました。中国語圏はもとより、日本を含む諸外国の学界でも、毛沢東の個人研究をはじめ、毛沢東が生きた近現代中国の歴史、政治、経済、文化、社会、対外関係などの多方面にわたり、多くの優れた研究成果が積み重ねられてきました。

しかし、2012 年の習近平政権の登場を一つの契機として、研究者をとりまく状況は大きく変化しました。中国国内では、国家安全保障の名目のもと、当局による言論統制が以前にも増して強まっています。新冷戦とも称される米国と中国の対立激化とも相俟って、研究者やビジネスパーソンは、以前に比べて安心して中国を訪問したり、現地での各種調査を実施したりできなくなりました。日本をはじめ各国社会でも、特定の国・地域を敵視する排外主義の国民感情も広まっています。

こうした複合的要因により、本学会の名称に掲げられた現代中国研究も、学問の自由と学問の独立がある種の危機に直面しているように思います。「第二の毛沢東」とも評される習近平の政権担当期間において、冷戦期のような〈分断の時代における現代中国研究〉の状況がふたたび現出しないという保証は、残念ながらありません。

以上のような現実を念頭に置きながら、今年の共通論題では、〈かつて実在した分断の時代の現代中国研究〉が十分に捉えきれなかった毛沢東時代の実相について、歴史、政治、社会、文化の各方面から現段階における研究の到達点を改めて確認するとともに、それら最新の知見を踏まえた今後の研究活動の方向性を展望したいと考えます。そのことは、毛沢東時代という過去の再考にとどまらず、習近平時代の現在と未来を展望するうえでも、歴史的視点を踏まえた重要な論点や分析の視座を得るための手がかりを提供するでしょう。

本共通論題では、毛沢東時代それ自体を直接に体験していない、あるいはほとんど実見していない若手・中堅・ベテランの方々に、報告者や討論者として登壇をお願いしました。研究者の世代の面でも、毛沢東時代の相対化を図りつつ、フロアとの質疑応答や討論では、当時の時代的雰囲気を直接に感得し知悉した大ベテランの方々との丁々発止のやりとりを期待しています。

まず、石川禎浩会員から基調報告的位置づけとして、政治史を中心に毛沢東時代に関する全般的な総括を行っていただきます。次に、社会・文化・外交について鄭浩瀾会員、大野陽介会員、大澤武司会員から、各分野の研究潮流と自身の研究活動に基づいて毛沢東時代を振り返ってもらいます。これらの報告に対し、高原明生会員と菅原慶乃会員からコメントをいただき、フロアとの質疑応答を含むより大きな議論へと接続していくことを期待します。

共通論題企画担当（座長） 鈴木隆